

令和7年度 都市整備委員会行政視察 事前勉強会資料

①11/10(月)【高山市】

視察項目	景観を守る取組について
視察項目の概要	<ul style="list-style-type: none">・歴史的資源を生かした国際観光都市・国交省所管「景観まちづくり刷新支援事業」モデル地区・インバウンド先進都市
視察項目に関する本市の現状・課題	<ul style="list-style-type: none">・継続して実施している歴史まちづくり事業等をはじめとする景観整備の成果が見えにくい。・歴史的建造物は、歴まち区域内に点在しているため、効果的な回遊性や面的整備の検討が必要。・近年における外国人観光客数の増加傾向を踏まえた歴まち区域への誘導などの対応が必要。
視察のポイント	<ul style="list-style-type: none">・国内唯一の歴史まちづくり計画第3期認定都市における観光資源・短期間かつ集中的に整備した「景観まちづくり刷新支援事業」による成果が顕在化している(屋外広告物、啓発看板、まちづくり協定)・景観・観光施策における地域住民や事業者等の理解・協力などの官民連携の素地形成に係るノウハウ

■ 歴史まちづくり計画 第3期 における取組

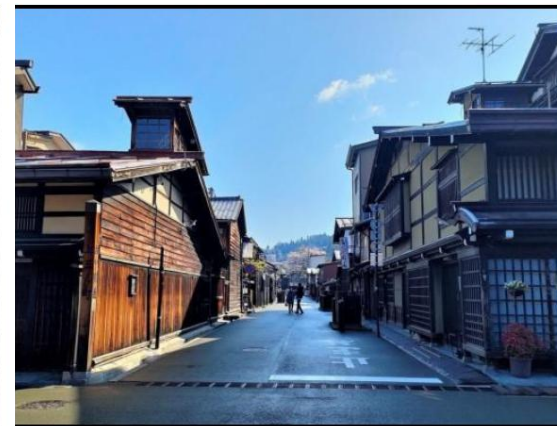
- ・初の3期計画認定都市（国内唯一）※
- ・景観重要建造物等修景事業
- ・無電柱化等事業
- ・町並み景観保全事業
- ・屋台保存事業
- ・町並み歩行空間創出事業

※第1期：H20-29
 第2期：H30-R6
 第3期：R7-16

別紙01_歴まち計画（第3期）概要版



飛騨高山にぎわい交流館「大政」



無電柱化整備路線（上一之町花里線）

■ 景観まちづくり刷新支援事業

- ・景観まちづくり刷新支援事業として指定されたモデル地区。
- ・3年間（H29-31：約31億）の集中的な景観の面的整備を実施。
- ・PRや広報などソフト対策も強力に推進。

別紙02_景観まちづくり刷新支援事業



人道橋整備事業



日本遺産活用整備事業（サイン改修）

■インバウンド先進都市

- ・R6年間観光客総数：3,871,000人（高山市人口の約47倍※）
- ・R6外国人宿泊者数：769,743人（過去最高）
- ・バスの一方通行の試行
- ・観光庁事業「オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光地域づくり」先駆モデル地域



パンフレットの多言語化

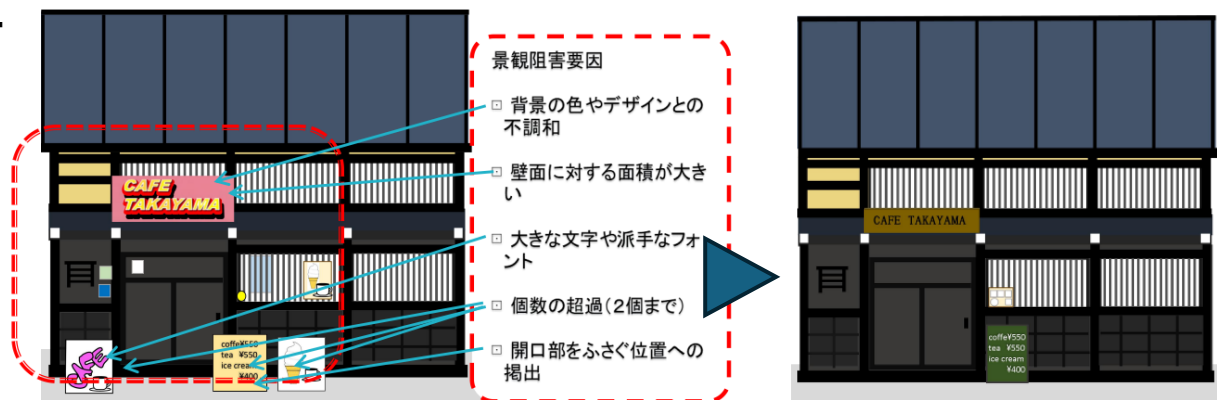
※R6.4月時点の人口で比較
高山地域（旧高山市）への観光客入込み



マナー啓発看板

■景観形成基準の見直しに係る取組

- ・屋外広告物の基準の見直し
- ・コーポレートカラー基準
- ・景観保全の取り組み強化
- ・夜間景観に関する基準



例：屋外広告物基準見直し後のイメージ

関連資料リンク

参照元	件名・タイトル	リンク先
高山市HP	景観まちづくり刷新支援事業	景観まちづくり刷新支援事業 高山市
	高山市歴史的風致維持向上計画	高山市歴史的風致維持向上計画 高山市
	景観形成基準の見直しについて	景観形成基準の見直しについて 高山市
	観光を活用した持続可能な地域づくり方針について	観光を活用した持続可能な地域づくり方針について 高山市
観光庁HP (国交省)	オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光地域づくり (先駆モデル地域)	岐阜県高山市における先駆モデル事例

高山市の維持向上すべき歴史的風致

豊臣秀吉の命を受けて天正14年(1586)に飛騨を平定した金森長近^{かなもりながちか}は高山城を築き、商人の経済力を重視した城下町を形成するとともに、東西南北方向の街道の整備を行った。以来、商人町として発達した高山は、京文化、江戸文化を取り入れながら飛騨の政治、商業経済の中心地として栄え、その長い歴史の中で様々な伝統文化を育んできた。現在も旧城下町には、江戸時代の面影を残す商家群など貴重な建造物が数多く保存され、「高山祭」をはじめとする伝統行事、一位一刀彫や飛騨春慶などの伝統工芸、さらには、歴史街道沿いの農山村集落においても独自の伝統文化が連綿と継承されており、周辺市街地と一体となって高山市固有の歴史的風致を形成している。

01. 城下町の地割にみる歴史的風致

旧高山城下町の町人地は、城下町時代の地割を今に伝え、江戸時代の面影を残す町家建築が建ち並ぶ。そこに暮らす人々は高山祭の屋台組を中心としたコミュニティの強い結束により、高山祭や秋葉様信仰などの活動を伝統的に行っている。

旧城下町の町家建築 ▶



02. 高山祭の屋台行事にみる歴史的風致

高山祭は、春の山王祭と秋の八幡祭の総称であり、江戸時代の初め頃を起源として今に続く。祭礼行事は旧城下町を舞台に、屋台を守り続ける屋台組の人々の強い思いと誇りによって執り行われ、絢爛豪華な屋台は伝統的な町並みの中を曳かれる。

高山祭の屋台行事 ▶



03. 東山寺院群にみる歴史的風致

飛騨を平定した金森氏は城下町を整備する中で、城下町の東に連なる山裾に数々の寺院を建立・移築した。これらは現在も東山寺院群として残されており、松倉絵馬市をはじめ、各種の法要、神社祭礼などの年中行事が脈々と受け継がれている。

松倉絵馬市 ▶



04. 飛騨匠の技と心にみる歴史的風致

古代に、税を免じてまでも優れた木工技術者(飛騨匠)を都へ派遣するよう定めた全国唯一の制度が飛騨にあり、建築技術をはじめ、飛騨春慶、一位一刀彫といった伝統工芸の中にも、飛騨匠の技術や感性が古代から現代まで受け継がれている。

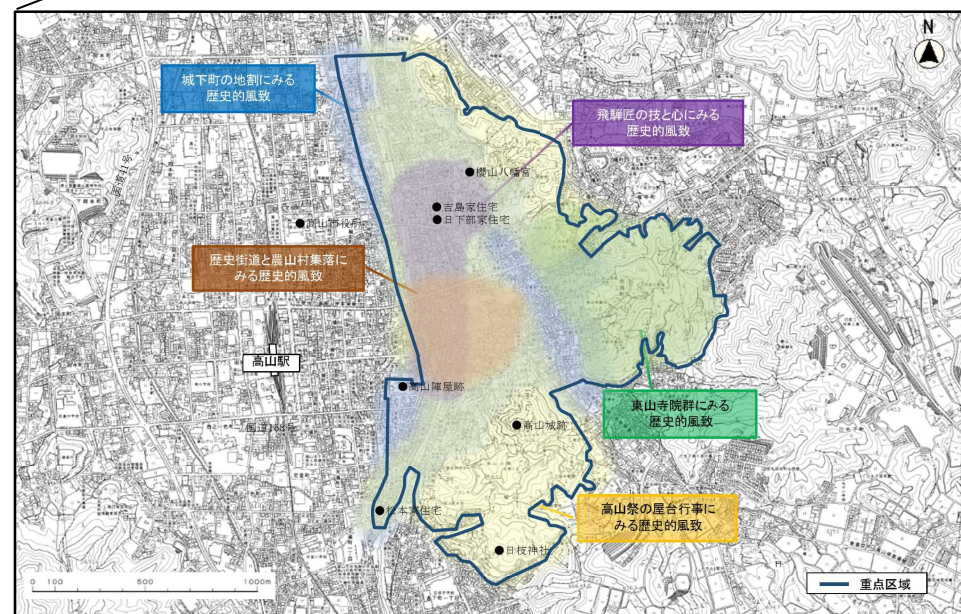
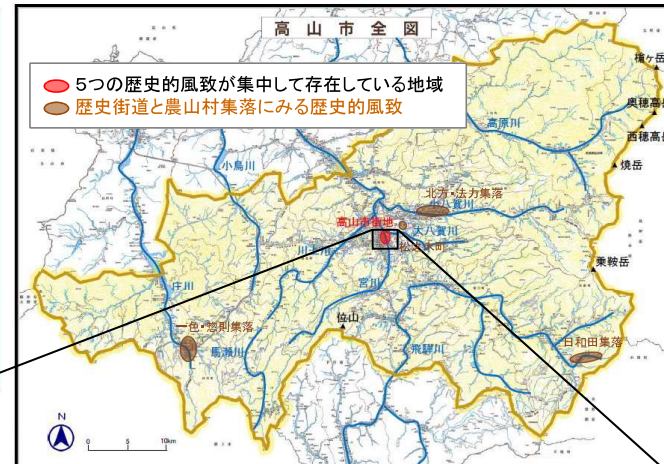
飛騨春慶 ▶



05. 歴史街道と農山村集落にみる歴史的風致

金森氏によって整備された東西南北の街道により、町人経済が発展するとともに豊かな町人文化が醸成された。また、各街道沿いの農山村集落では、城下町の文化と周辺地域の文化との混交が見られ、独自の伝統文化が今も継承されている。

旧江戸街道 ▶



高山市の重点区域における施策・事業概要

重点区域の名称と面積
 名称: 城下町高山 面積: 約207ha

別紙 1

重点区域において、歴史的建造物の保存・活用や無電柱化等による歴史的景観の再生などを実施するとともに、市域全体においても日本遺産や農山村集落の歴史文化資産を活用した事業等を実施し、歴史的風致の活用による地域活性化を図る。また、居住者の減少・少子高齢化の進展を背景に、祭礼行事などの伝統文化等の担い手育成・確保に資する事業などを推進し、歴史的風致の維持向上を図る。

① 歴史的町並保存事業

重要伝統的建造物群保存地区内の建造物の修理及び外観の修景、防火対策に要する経費の一部を助成することにより、歴史的な建造物の保存を図る。



修理された建築物 ▶

⑦ 屋台保存事業

高山祭の屋台修理・屋台蔵修理を計画的に実施するとともに、屋台の保存に関わる団体の活動に対して助成を行い、屋台の保存を図る。



高山祭屋台 ▶

⑩ 伝統行事担い手支援事業

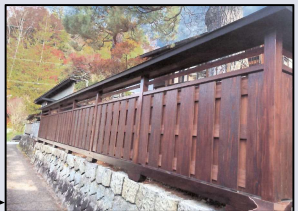
祭りなどの伝統行事の継続に苦慮している地域において人材の確保を図るため、伝統行事の継承者や関係団体などと検討のための委員会を組織し、具体的な支援策などの検討を進める。



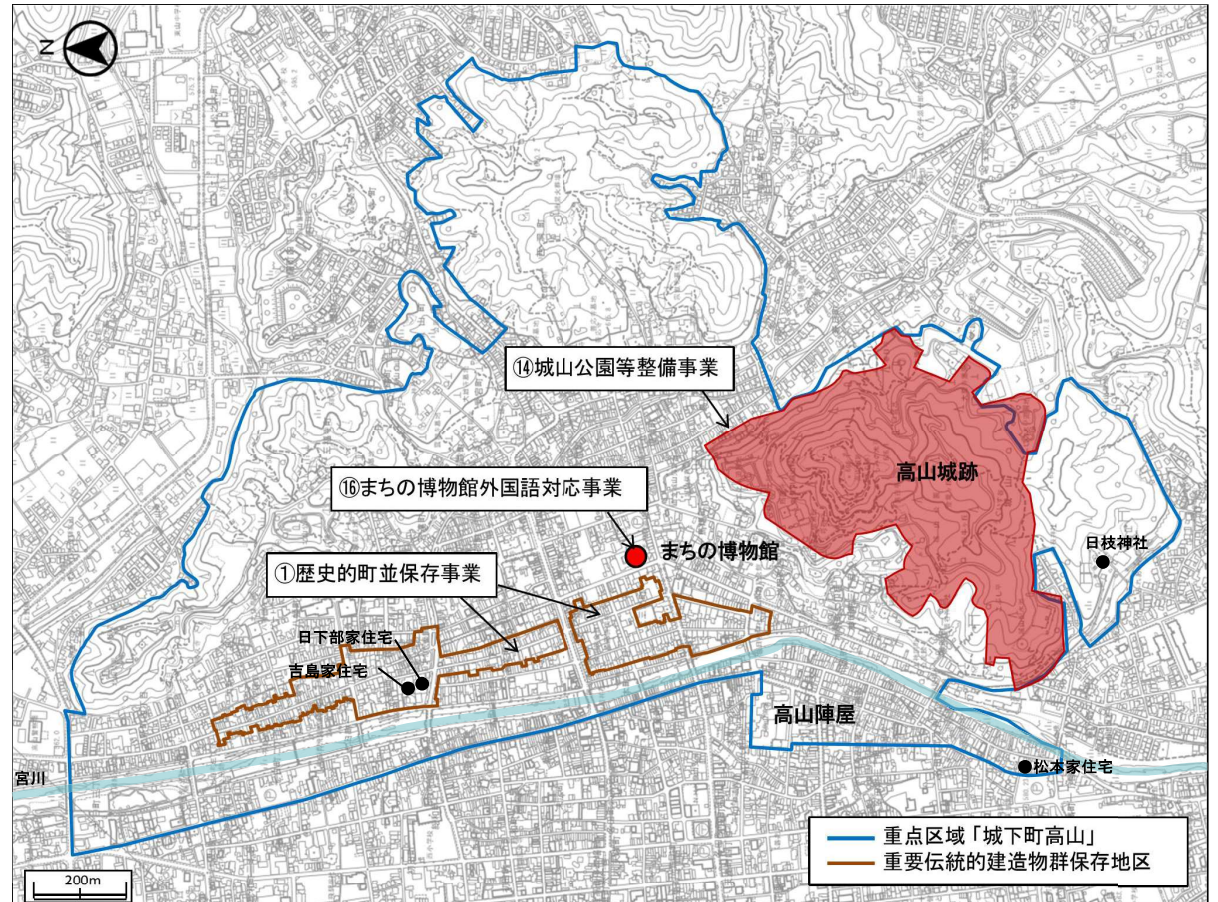
高山祭(八幡祭)でのお囃子演奏 ▶

⑫ 伝統的大工技術等継承事業

地域の伝統的な技法により行う建築物の修景等に係る経費の一部を助成することにより、地域の伝統的な技法の活用を促進し、伝統的な技法の継承と地場産業の振興、美しい景観と潤いのあるまちづくりを推進する。



伝統的な大工技術により修景された塀 ▶



- 重点区域全域を対象とした事業
- ② 景観重要建造物等修景事業
 - ⑤ 無電柱化等事業
 - ⑥ 町並み景観保全事業
 - ⑦ 屋台保存事業
 - ⑬ 町並み歩行空間創出事業

- 市全域を対象とした事業
- ③ 伝統構法木造建築物耐震化事業
 - ④ 指定文化財保存活用事業
 - ⑧ 伝統行事・伝統技術伝承事業
 - ⑨ 郷土の歴史・文化の語り部育成事業
 - ⑩ 伝統行事担い手支援事業
 - ⑪ 文化遺産・地域資源活用調査事業
 - ⑫ 伝統的大工技術等継承事業
 - ⑬ 日本遺産活用整備事業


高山市概要



市域面積：2,177.61km²
 人口：89,182人
 予算規模：469億円
 (H28一般会計当初予算)
 財政力指数：0.52

景観刷新モデル地区概要

面積：3.4km²
 モデル地区への主な移動方法：高山駅から中心地まで徒歩10分



飛騨高山

モデル地区、主要事業箇所図



① 高山駅前の景観修景
 屋外広告物等の外観修景 N=30
 歩行空間の高質化 L=50m

② 東西歩行者軸の整備
 無電柱化、舗装等のグレードアップ L=350m

③ 宮川河川軸の整備
 朝市通りの美装化 L=330m
 宮川沿い建造物外観修景 N=50
 人道橋の整備 N=1
 賑わい創出施設の整備 ほか

④ 下町拠点施設の整備
 若者等交流拠点施設 N=1

⑤ 歩行空間の創出
 舗装等の美装化 L=1,310m
 スポット整備 N=6
 案内看板等の整備 N=80 ほか

⑥ 屋外広告物の修景促進
 高層建築物の外壁修景 N=2
 看板設置等支援 N=30
 屋上看板の撤去支援 N=10 ほか

⑦ 駅西駐車場等の整備

⑧ その他
 バス待合所の整備 N=1~3
 インキュベーション施設の整備 N=1

総事業費：31億円
 H29年度：9.8億円(内数)

■ 主な事業箇所
 ■ モデル地区

0 0.25km 0.5km

I 景観の刷新


① 駅前景観の刷新



② 駅から歴史的町並みの無電柱化

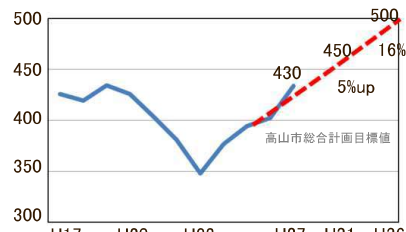


③ 宮川水辺景観の刷新



II 受入観光客数の増加

H23震災以降、回復基調にある。官民連携により一層の景観向上に取組み、H36までに500万人(外国人宿泊者数50万人)を目指す



年度	観光客数(万人)
H17	420
H20	430
H23	340
H27	430
H31	450
H36	500

高山市総合計画目標値

III 事業の実現可能性

当市の景観・観光資源は、地域住民の住まいや商業空間と一体かつ広域に存在している

本事業の実施に際しては、地域住民や事業者等の理解・協力が欠かせず官民連携を十分に図る必要があるが、これまでの息の長い取組みにより、その素地は既に形成されている

IV 景観に関する近年の取組状況

【ハード】 下二之町大新町伝建地区の無電柱化、飛騨高山まちの博物館・伝統文化交流拠点施設(旧森邸)の整備 ほか

【ソフト】 景観重要建造物外観修景の助成、景観阻害物の撤去、伝統構法木造建築物の耐震化、景観計画見直し(基準強化)、景観保存区域の拡大、東山寺院群至宝巡りイベントの開催 ほか



V 地域活性化への貢献

【新たなまちの魅力の創出】
 集客増、ファン・リピーター獲得
 飛騨高山ブランドのレベルアップ

【周遊性向上、滞在時間の増加】
 一人あたり観光消費額の増加
 宿泊地に選ばれる観光地づくり

【下町など優れた地域資源の発信】
 上町への集中を緩和、広域化
 歩いて楽しいまちづくり

民間による取組内容

【まちづくり会社】
 外国人おもてなし拠点施設(グルメ食店街)の整備・運営

【屋外広告物所有者】
 助成金を活用した修景・撤去

【建築物等所有者】
 助成金を活用した外観修景、公共空間の提供(セットバック)、事業用地・建物の提供

※その他関係団体等と連携